

令和6年度 第1回加賀市健康福祉審議会 障害者分科会会議録（発言要旨）

※発言内容については、発言趣旨を損なわない程度に変更・修正している箇所があります。

□と き 令和5年8月22日（木曜日）午後1時30分～午後3時7分

□ところ 加賀市役所別館 3階 302・303会議室

□出席者 長谷川委員、西野委員、吉村委員、中谷委員、澤田委員、木戸口委員、大家委員、
樫尾委員、永山委員、谷井委員、下道委員、安田委員、酢谷委員、政氏委員、富田委員、
宮北委員、
（欠席者）岩尾委員、篠原委員

□事務局 （市民健康部）北口部長
（介護福祉課）篠田課長、金森企画官、西島リーダー、伊豆藏主事
（相談支援課）西課長（地域包括支援センター）東出所長
（子育て応援ステーション）松浦所長

次第

開 会（午後1時30分）

部長挨拶

会長及び副会長の選任

議 事

- （1）加賀市健康福祉審議障害者分科会について 資料1
- （2）加賀市の障がいのある人（子ども）の状況 資料2
- （3）第6期加賀市障がい者計画の進捗状況について 資料3
- （4）第6期加賀市障がい福祉計画・第2期加賀市障がい児福祉計画の進捗状況について 資料4
- （5）第7期加賀市障がい者計画・障がい福祉計画・第3期加賀市障がい児福祉計画について
令和6年度主な障がい福祉施策について 資料5
 - 1 地域生活支援拠点等整備事業
 - 2 手話施策推進事業
 - 3 AI や IoT 等を活用した障がい福祉事業
 - 4 日常生活用具給付事業の拡充
 - 5 医療的ケア児の支援

閉 会

議事要旨

会長及び副会長の選任

役員選出について、事務局一任との声 があり、事務局案として会長に長谷川委員、副会長に西野委員を提案し了承された。

議事（１）加賀市健康福祉審議障害者分科会について 資料１を説明

質疑応答 特になし

議事（２）加賀市の障がいのある人（子ども）の状況 資料２を説明

質疑応答 特になし

議事（３）第６期加賀市障がい者計画の進捗状況について 資料３を説明

議事（４）第６期加賀市障がい福祉計画・第２期加賀市障がい児福祉計画の進捗状況について
資料４を説明

事前質問 成年後見制度について（当日配付資料の回答のとおり）

事前質問 施設入所者の地域生活への移行について（当日配付資料の回答のとおり）

質疑応答（議事（３）から議事（４）までについて）

梶尾委員 福祉避難所について、加賀市は６６箇所と契約しているそうですが、１月１日の能登半島地震のような広範囲にわたる被害が発生する地震があった場合に、どこまで福祉避難所の開設が達成できるか。また、想定外のことが起こったときには、どのように考えているか。

事務局 福祉避難所は６６箇所の協定、そのうち１１箇所が障がい者施設となっている。本来事業所はもっとあるが、２４時間体制で人員を配置している事業所施設において意向のある事業所と協定を結んでいる。

実際、１月１日の震災のような状況があったらどこまでできるのかというのは、私ども、事業所ともシミュレーションしながら取り組んでいくべき内容と思っている。これまでも研修会であったり、年に１回の防災訓練では福祉避難所のトリアージの訓練を行っておりますが、今年度以降も事業者間の運営課題であったり、意見交換などの取組を詰めていきたいと思っているが、まだ実現できていない。秋の防災訓練のスケジュールにめがけて運用をしていきたい。

谷井委員 成年後見制度に関して、加賀市民３,０００人に行った調査について、障がい団体当事者に対するものなのか。聞きたいのは、身体の方３,０００名、知的の方５４９名、精神の方５０７名、合計４,５００名ほどの当事者がいる。この方々の認知度を意識している。５３％が知っていると楽観的に言われますけど、この制度の中身を理解して、使えるということを見極める、判断できる方々がどの程度いるのかを聞きたい。

当事者や家族に対するアンケート調査では、８０％近くの方が制度の内容を全く知らないとある。この数値の違いをどのように考えているか聞きたい。

事務局 地域の福祉に関するアンケートはこころまちプランのデータベースですので、２０歳以上の市民３,０００人を無作為に抽出しているため障がいのある方、家族というだけではない。

健康福祉審議会の意見の中にも、障がいのあるお子さんの親御さんがおり、自分たちもきちっと制度や窓口を理解しておきたいというふうに、意見を頂戴している。今年度は専門職を対象に研修を行っているが、継続して親御さんや必要な方を対象

とした研修会、講座をこれから行っていききたい。その中でも後見センターほっこりとも連携しながら丁寧に行っていききたい。

議事（５）第７期加賀市障がい者計画・障がい福祉計画・第３期加賀市障がい児福祉計画について
令和６年度主な障がい福祉施策について 資料５を説明

質疑応答 特になし

休憩

意見交換（各委員から）

長谷川会長 ここから委員皆さんのご意見などをお聞きしたい。一人あたり２分ほどしかありませんが、順番をお願いします。

吉村委員 サポートプランについては、市民の方、障がいのある方もない方も、皆さんが実施してほしいという内容だと思うが、例えば視覚障がいの方とか読み書きが難しい方とかに向けて、概要版であるとかルビ振りとか音声読み上げバージョンのようなものが提供されているのかどうか教えていただきたい。

事務局 サポートプランは、PDF 化したものをホームページに公開している。ホームページに読み上げ機能はあるが、PDF データを開くと対応していない。ワードなどをそのまま掲載するには容量が大きく掲載できない状況、今後どのように周知していかるか考えていきたい。

中谷委員 南加賀保健福祉センターの業務に関しましてご意見等あれば、逆にお伺いして当センターの業務に生かしていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

澤田委員 障がい者の方を含め、高齢者の方がいざ災害が起きた時に何をするかを勉強したいと思い、かもまる講座をお願いしたが、私たちが個人的に考えていることと市役所の考えていることは一般的なことで、本当に障がい者の方や高齢者の方、車椅子の方がどうするのかというようなことに対しての具体的な勉強会みたいなことをしていただきたい。ボランティアの会で開催しました時に、障がい者、高齢者、それから一般の健常者の方たちの災害に関しての対処の仕方ということを具体的に書いてもらってもいいが、もう少し勉強したいと切実に思う。今回この会議に入れていただいて勉強させていただきたいと思います。よろしくご指導お願いします。

木戸口委員 民生児童委員協議会はコロナ前まで障がい者のスポーツ大会運営の手伝いに行ったり、各地域で孤立防止のため民生委員一人一人が市民と繋がる役目を果たそうと日常的に活動しているが、健康福祉審議会の内容については難しくて質問意見は

特にない。私の町内に人工呼吸器をつけた重度の障がいのある方のお母さんがいて、自分に何ができるかと思いながら関わっている。今回の能登半島地震の時に「どうしますか」と声かけしたら、その母親は「大丈夫、子どもを連れて実家に避難します」と言っていてしっかりしているなど感心したが、そのような声かけをしたり、そういう方が頼りにしている近所の方のために情報を集めておいたり、精神障害者手帳をお持ちの方が寂しいと言っていたので時々話し相手になったり、民児協としてはレベルが低いかもしれないが、日頃このような活動を行っている。今日ここで勉強したものを持ち帰って日頃の業務に生かしたいと思い参加している。

大家委員 一人一人取りこぼさない保育を考えた時に、障がい者一人一人の願いや可能性もあり、それが障がい者にとっても大切だと思うが、園ではそこに対して人材確保、本当にマンパワーが必要だというのが悩みの一つなのだが、どのような方法で人材確保できるのか簡単な問題ではないと思っている。

樫尾委員 4つの質問と1つの意見を言う。

1つ目、視覚障がい者の合理的配慮に関する事で、6年程前から情報アクセシビリティが謳われているが、100%とは言わないが少しでも私たちにとって情報がわかりやすくなるように配慮をお願いしたい。

2つ目、第7期障がい福祉計画の策定について、当事者抜きで決めないで当事者を入れて計画策定をお願いしたい。

3つ目、防災対策について昨年度も言ったが、視覚・聴覚・肢体を含めた防災マニュアルの草案を、身体障害者福祉協会を通して今年度末までに障害者分科会に提示したいのでよろしくお願いします。

4つ目、いつも言っているが山代総湯周辺の点字ブロックがない、並びに市内の道路が凸凹になっており当事者は歩きづらい。なぜ改善できないのか篠田課長を通じて関係当局の判断・報告を次回の分科会でお願いしたい。

最後に意見、各委員の質問表をスマホからでもいいのでワードやエクセルで介護福祉課に送り、視覚障がい者が読めるようなテキストデータの質問資料を作ってほしいので今後検討してほしい。

事務局 時間がかかるのでまとめてお答えしたい。障がい者の意見をしっかり聞いてほしいということだと思っている。分科会の中では時間的制約があるので、細かいところまで聞けない状況になっている。分科会とは別に意見を聞く場を設けたいので、それをどのようにするかをまた相談したい。個別の案件については、そのような場で膝を突き合わせて話をさせていただきたい。

永山委員 AI、スマートインクルージョンについて、コロナ前に東京から先生が来られて話を聞いたが、今後どのように進めていくのか進捗状況を知りたい。

事務局 スマートインクルージョンについては、バリアフリーと同様に全ての事業の中で ICT の活用を図っていこうという考え方をしている。当時お話していた障がい者情報の一元化など、情報を共有して、いいサービスを提供するということについては、現在国がいろいろな情報の活用策を進めている。その波に乗って一緒にやっていきたいと考えている。マイナンバーカードと合わせて進んでいるので、その流れに沿ってやっていきたい。

宮北委員 本校は加賀市唯一の特別支援学校ということで、センター的機能の充実を図りたいと考えている。市内の特別支援学級の状況を見ると、現在 200 名程の児童・生徒が在籍している。その方々に本校の学校公開等を利用していただき、保護者と一緒に学んでいただける研修会、卒業後の進路を考える研修会、進路相談、教育相談等の充実を行っている。市内の特別支援教育が一層充実できるように本校でも尽力している。

1 つお願いしたい。本校の児童・生徒、また卒業後作業所等で頑張っている卒業生が生活介護等でいろいろな図工・美術作品を作っている。素晴らしい作品もたくさんある。加賀温泉駅周辺のお店等の事業がはっきりした後でいいので、作品を飾れるようなスペースができればいいと希望しているのでよろしくお願いします。

富田委員 資料 4 について質問したい。一般就労へサービスから移行した方が 3 名おられた。うち 2 名は B 型で、もう 1 名は何を使っていた方かお聞きしたい。

事務局 記載のサービスは自立訓練だったと思う。目標設定の中になかったので省かせていただいた。

政氏委員 ハローワークで障がい者や求職者と日々お話している。
資料 5 について質問したい。私は障がい者テレワーク雇用オンラインセミナーに興味を持った。テレワークを希望される障がい者がたくさんいらっしゃるが、このセミナーはこれまでも開催していたものなのか。また反響はあったのか教えてほしい。

事務局 後日詳しくお答えしたい。

酢谷委員 私は分科会参加は 3 度目だが、毎回樫尾委員の質問・意見に感動している。道路が歩きにくい等の当事者の生の声を聞けてよかったし、このような冊子も素晴らしいと思った。先程澤田委員からの意見があり防災の学びをいただいたが、それが悪いという意味ではなく、事務的なことが並んでいて一体私たちは具体的にどうすればいいのか、私たちがほしい答えをいただきたい。先程課長が「時間がないのでまた改めて具体的に話す機会を設けましょう」と言われたので、障がい者が本当に必要とする細かい部分を学び合いたい。

安田委員 何年か前から医療的ケア児の保育についての話が何回かでてきたが、今どれくらい進んでいるのか。また、災害時の対応について、地震後実家の輪島に行くとも道路状況も悪く、工事中の信号がずっとそのままだったり、とにかくひどい状況だが、そういう所で公的な人もそうだが地域の人が協力しなければいけない。現場でリーダーとなる存在が公務員の皆さんなので、障がい者に対する知識をもう少し身につけていただき対話できることが必要だと思う。私の叔母が認知症で避難所から徘徊していなくなったが、近所の人が声掛けして連れ戻してくれたので助かったという経験をしたので、地域でのネットワークを充実させていくことも必要だと感じた。

下道委員 私は精神障がい当事者で中学くらいから病気だったと思うが、そのまま高校に進学し就職した。精神科に通ったほうがいいのかと何回も思ったが、精神障がいや精神科への偏見が強くて行けなかった。結局大分追い詰められてどうしようもなくなってから病院に行った。もっと早くから通院していれば軽い症状で済んだのかなと思うと、やはり障がいや障がい者への理解が大切だと思う。

谷井委員 障がい者の当たり前の生活という基本理念は素晴らしいと思う。この理念を達成するために具体的な福祉施策がなされているわけです。私は PDCA 中の Check・Action に期待したい。それが今どこまで進んでいるのか。できた、できない、なぜできないのか、やるためにはどうしたらいいのか、具体的な Check・Action が常に繰り返されて達成していく。しかし、現在行政側のスタンスはあまりにも申請主義に走りすぎていると思う。ちょっと言い過ぎかもしれないが。この理念を達成するために我々が期待すべきは、能動的なプッシュ型になっていないという大きな視点である。こういった展開に向けて皆さんどのように考えておられるか意見をお聞きたい。

事務局 今申請主義というお話があったが、どうしてもそういうところはある。制度を使っていたのに申請が必要であるという現状があるが、加賀市としては相談体制に力を入れている。制度をあまり知らなくても困らないように、相談の中で適切な制度を紹介していくということを考えている。そのために相談窓口等を充実させてきた。また、市だけではできないので、相談支援専門員や民生委員にもご協力いただきながら、手が届かないことがないようにという考え方でやっている。全ての方が全ての制度を理解するのは不可能だと思う。ご心配なく、とにかく市役所に相談してもらえればなんとかなりますよという体制を整えていきたいという考え方でやっている。

西野副会長 防災関連について、輪島のほうで地震が起きてから肢体障害者福祉協会では安否確認をしたが全然電話が通じない。会員のほとんどは携帯電話を持っているが個人情報もあり番号を把握していない。固定電話の番号は把握している。確認しようとし

たがわからなかった。役員会での話だが、地震後すぐに民生委員が見回りにきたところもあればそうでないところもあり、地域によってばらつきがあった。多分民生委員も忙しかったんだろうと思うが。それから我々も悪いのだが、安心カードを役所に出しているが拒否して出さない人もいる。非常時に障がい者を助けてもらうためにと言っているが徹底できていない。また、以前防災訓練の時に役員が障がい者役をやっていたが、各地域に障がい者がいるので当事者を実際に使って訓練してくださいと言いつつ続いていたが、コロナで中止になった。今年再開するが、車いすの方や目の不自由な方が地域に必ずいるし、役所もその情報を知っていると思うので、なるべくその方々を入れて実際に体験してもらいたい。少しずつでも前に進んでいけたらと思うので検討をお願いしたい。

長谷川会長 医療機関で困っていることを2点知ってほしい。

1つ目は、障がいの施設に入所されている方が例えば認知症になってもなかなか介護施設に移れないという問題がある。そのへんの接続がうまくいかない方が何人かおられる。

2つ目は、医療機関の職員がなかなかいい人材が集まらない。なんとか頑張っているが、加賀市の人口ピラミッドを見ると、我々が求めている年齢層はかなり人数が少ない。だから人口ピラミッドに合致した施策も必要になってくると感じている。

事務局 たくさんのご意見ありがとうございました。今いただいたご意見を整理して、できるだけ次回お返しできればと思います。よろしくお願いします。

閉 会（午後3時7分）